



早めの受診を 不妊症にっしん

不妊症とは「妊娠を希望している男女が避妊していないにもかかわらず、1年以上妊娠しない場合」とされています。日本ではこれまで「2年以上妊娠しない」場合が不妊症とされてきましたが、近年女性の晩婚化傾向も強くなっているのが、早期に検査・治療をするよう、2015年に「1年以上」に期間が短縮されました。もちろん医学的理由がはつきりしている場合(卵管閉塞や精子症などは、この妊娠しない期間の長短にかかわらず自然妊娠が望めない)ので早めに受診が必要です。

もしも「私たちは不妊症かな？」と思いがたることがある場合や、女性の年齢が35歳以上であれば早期に産婦人科を受診して相談されることをお勧めします。不妊症の検査はまず「今の状態を確認する」ところから始まります。月経周期

が安定してちゃんと定期的に排卵は起こっているのか、精子の数・運動性はどうか、卵管は詰まっているか、精子と女性の相性に問題はないのか、ホルモン異常はないか、その他にも不妊治療より優先するべき健康面の問題はないかなどを調べることで、今のお二人の状態で自然妊娠が期待できるのか、何か医学的に手伝ったほうが良いのかを判断していきます。

不妊症検査・治療は高額な自己負担がかかる印象がありますが、卵管検査やホルモン検査、排卵誘発剤の投与、超音波検査など主だったものは医療保険の対象です。医療保険適用外の治療もありますが、主治医とよく相談されてお二人に必要な治療を選択することを勧めます。